

シーボーク 500R

道糸をリールに巻きます「指定入力編」

指定入力とは当社棚センサーブライトを巻くとき、データをインプットするだけで道糸入力できる便利な方法です。ただし、下記の場合のみ可能です。

・下巻きをしない場合 ・11ページの表に記載されている号数および巻き糸量の場合

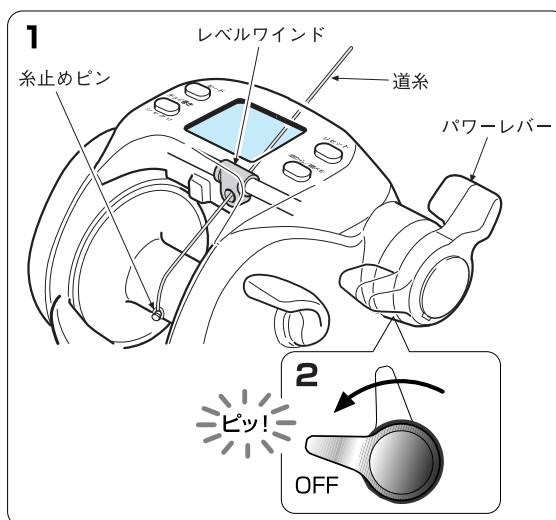
1. 道糸をレベルウィンドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピン (P.8参照) を使うとかんたんに通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

2. パワーレバーをOFFまで戻します。

※ドラグをしっかり締め込んでください。



3. リールを通电させ、パワーレバーをMAXの位置まで倒し最後まで道糸を巻いてください。

※接続方法についてはP.2電源とのつなぎ方を参照ください。

※道糸は約1kgのテンションで巻いてください。

※糸を巻き込まないように注意してください。

※フィンガーガードに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。

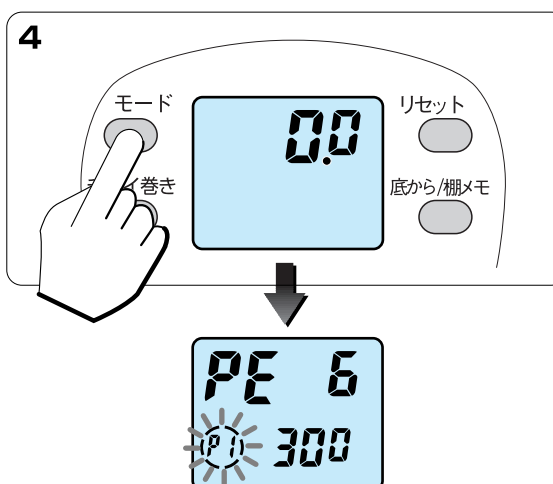
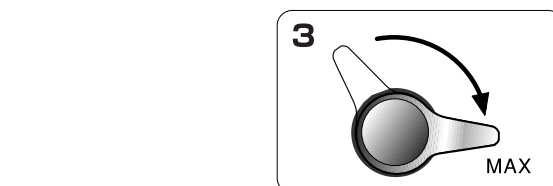
4. 表示が **0.0** のときに **モード** スイッチを5秒間押し続けてください。

5. 初期設定PE6号-300mの画面になります。

(**P1** が点滅します。)

6. パワーレバーで、数値をセットし、**モード** スイッチを押せば完了です。

(**0.0** に戻ります。)



PE（左上の表示がPEの場合）(m)						フロロ（左上の表示がLの場合）(m)					
4号	100	200	300	400	470	5号	100	200	300	400	420
5号	100	200	300	350		6号	100	200	300	330	
6号	100	200	300			7号	100	200	280	300	
8号	100	200	220			8号	100	200	240		
10号	100	170				10号	100	200			

※シーボーク500Rには、あらかじめタナセンサーブライツ6号-300mのデータが入力されています。
タナセンサーブライツ6号-300m巻く場合は、データのインプットは不要です。

道糸をリールに巻きます「リールに巻く糸の長さがわかる編」

リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。
当社棚センサーブライト以外の道糸を巻く場合は、この方法で入力してください。

1.道糸をレベルウィンドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピン (P.8参照) を使うとかんたんに通せます。

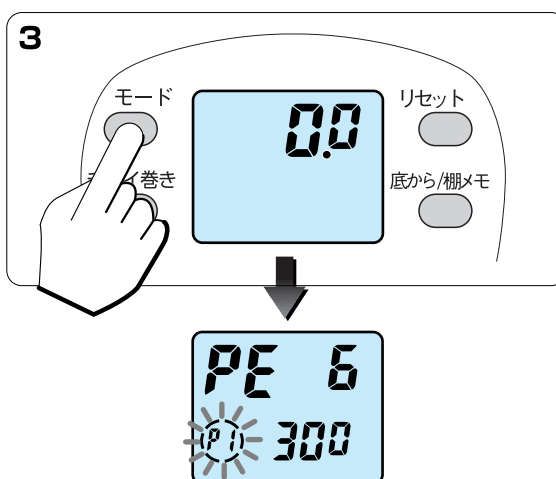
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

2.パワーレバーをOFFまで戻します。

3.表示が **0.0** のときに **モード** スイッチを5秒間押し続けてください。

4.初期画面になります。

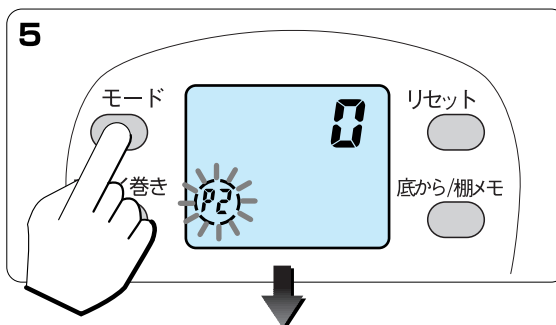
(**P1** が点滅します。)



5.もう一度 **モード** スイッチを押します。

(**P2** が点滅します。)

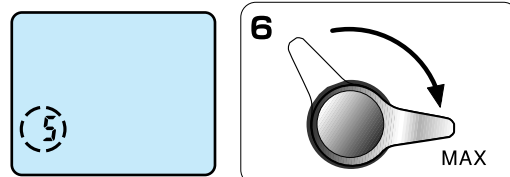
※ドラッグをしっかり締め込んでください。



6.パワーレバーをMAXの位置まで倒して道糸を巻きます。

パワーレバーを倒すとテンション表示に変わります。

パネル左下の数字が4~5になるようにテンションを調整して巻いてください。



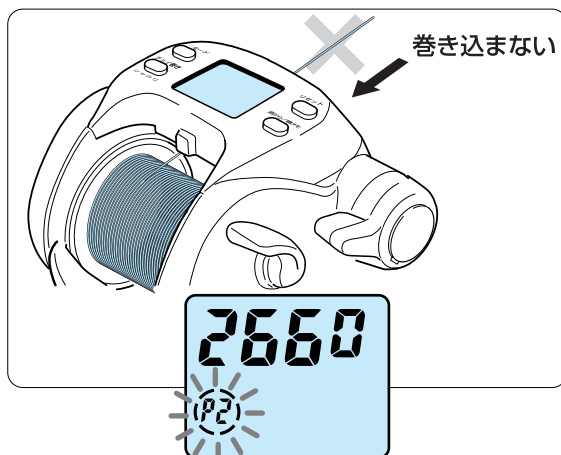
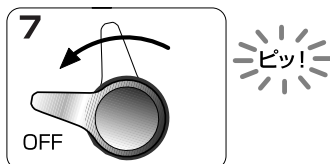
※フィンガーガードに糸があたると、リールが傷つくことがあります。

糸があたらないようにご注意ください。

7. 巻き終わったらレバーをOFF位置まで戻します。(アラーム音)

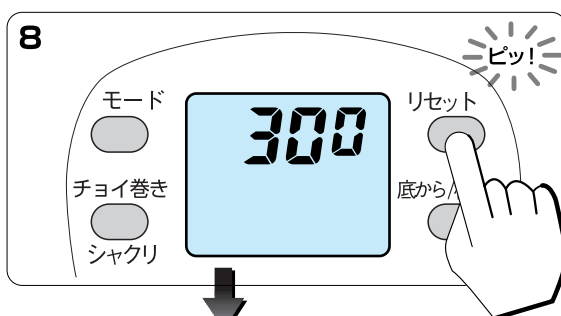


・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因にもなります。



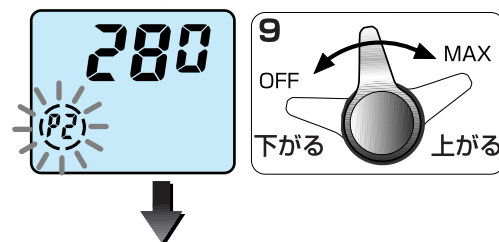
8. **リセット** スイッチを2秒以上、表示が **300** になるまで押してください。

(300は初期値です。)



9. パワーレバーで、道糸の長さをセットします。

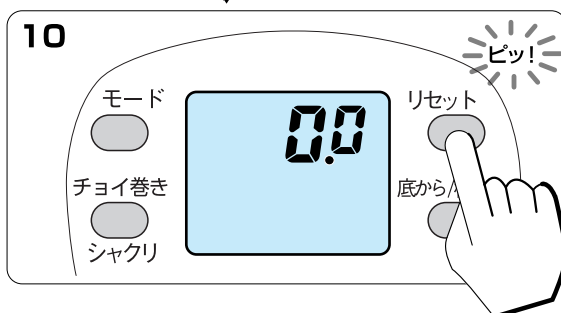
(図は、280m入力した場合です。)



10. **リセット** スイッチを2秒以上押してください。

(アラーム音が鳴り、表示が **0.0** になれば完了です。)

※ **Err** になった場合は、再度入力をしてください。
モード スイッチを押せば、**0.0** に戻ります。)



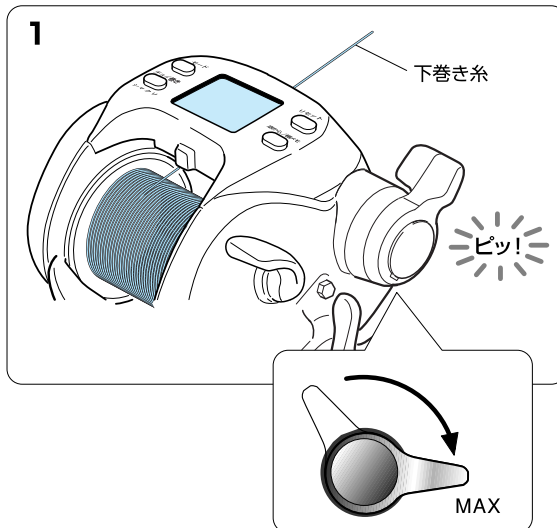
道糸をリールに巻きます「下巻き入力」

ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

1. リールを通电させ、パワーレバーをMAXの位置まで倒し、下巻き糸を適量まで巻いてください。

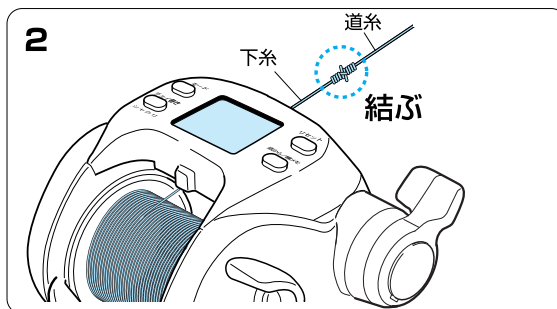
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンを利用して巻きつけてください。

※ドラグをしっかり締め込んでください。



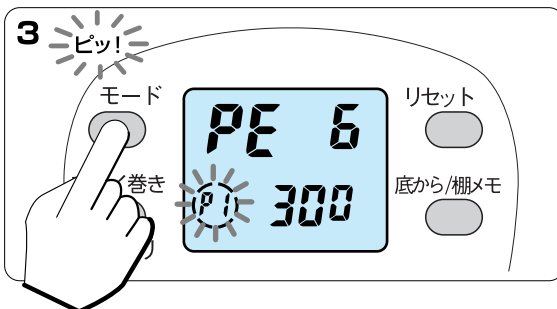
2. 道糸と下巻き糸を結び、道糸の色を見ながら残り100mまで巻取ります。

※用意した道糸量が100mの場合は、3へ。



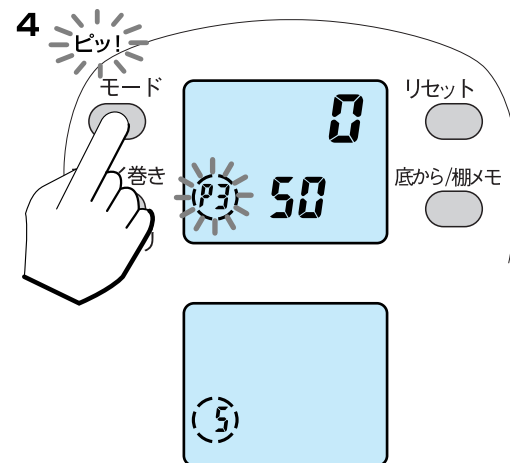
3. **モード** スイッチを5秒以上押します。

(指定入力画面になり **P1** が点滅します。)



4. さらに **モード** スイッチを2回押すと下巻きモードになります。

(**P3** が点滅します。)

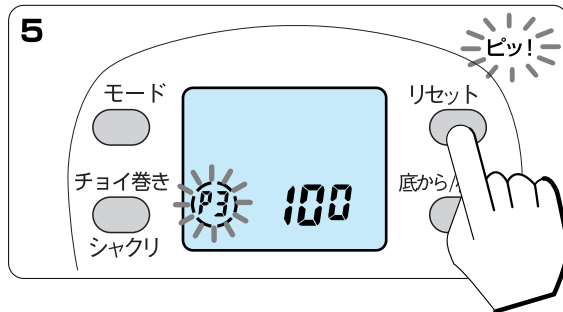


パネル左下の数字が4~5になるようにテンションを調整して巻いてください。

※フィンガーガードに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらぬようにご注意ください。

5.道糸の色に注意しながら50m巻き取り、**リセット** スイッチを2秒以上押してください。

(下の数字が50から100にかわります。)



6.同様に残りの50m巻き、**リセット** スイッチを2秒以上押してください。

(表示が **0.0** になり、完了です。)

※ **Err** になった場合は、再度入力をしてください。

モード スイッチを押せば、**0.0** に戻ります。)

